

研究活動報告 (25)

里山学研究センター3班 (民俗文化班) 研究活動報告

須藤 護^{*1}・朴 炫国^{*2}・張 英花^{*3}・橋村 修^{*4}・蔭山 歩^{*5}・櫻井 想^{*6}

里山学研究センター3班民俗文化班は、2009～2011年の3ヶ年にて、以下の研究計画を立てています。今回はその概要、今年度の研究活動報告をします。

(1) 研究テーマ：「里山利用における物質文化・精神文化の相互研究」

物質文化および精神文化の両面から、里山と地域社会の歴史、人々の暮らしについて掘り下げていく。またこのチームは韓国の研究者が参加していることから、里山の日韓比較研究を視野に入れている。

(2) 研究目的

この研究の目的は2点ある。第1点目は、近江地方の博物館や民家に収納されている民具の調査を通して、里山と人々の生活のかかわりを具体的に明らかにすること、そして民具の素材やその分布・製作方法をみていくことにより、自然科学分野（第1班）との研究連携を図ることである。

第2点目は、山を対象にした祭祀・儀礼、四季折々に催される歳時習俗、今日まで伝承されてきた説話などを通して、人々の山や自然に対する意識を探り、山や自然に関わる信仰が生活の中にいかに浸透していたかを探ることである。

物質文化と精神文化の相互を研究対象にすることで、里山をめぐる人々の生産・生活を具体的に掘り下げていく。その過程で連続として継承されてきた山や自然の維持管理

^{*1} 龍谷大学国際文化学部教授・里山学研究センター研究スタッフ

^{*2} 龍谷大学国際文化学部准教授・里山学研究センター研究スタッフ

^{*3} 龍谷大学非常勤講師・里山学研究センター研究スタッフ

^{*4} 国立民俗博物館研究員・龍谷大学非常勤講師・里山学研究センター研究スタッフ

^{*5} 里山学研究センターリサーチ・アシスタント

^{*6} 龍谷大学大学院国際文化学研究科

に係る多様な形で知恵を発見し、記録保存することに努める。このような記録は、将来の里山の保全・管理に役立てることも可能であろう。

(3) 里山利用における物質文化の研究

研究方法および研究成果

先の目的に接近するために、2カ所の博物館と調査対象地域を設定する。博物館は大津市田上地区の郷土史料館と、県立琵琶湖博物館を候補としてあげる。いずれも1970年代の高度背経済成長期に、民具の絶滅に危機感を抱いた地域の人々や有識者が収集した民具が大量に収蔵されているからである。田上郷土史料館は民具整理を必要としているが、主に湖東・湖南地方の特性を備えていること、また琵琶湖博物館はすでに民具整理作業が終了しており、滋賀県全体の傾向を理解する目的がある。

研究方法は民具の実測、民具カードの作成等、現地調査が中心になる。田上郷土史料館においては、主に織物関係用具と農耕具を中心に民具カードを作成し、湖南地区で使われてきた民具の製作方法、用法および素材に関する基礎資料の集積をする。そして人々の生産・生活の履歴をたどるとともに、山の資源をいかに活用してきたかを具体化していく。この研究では里山利用の知恵と技術の在り方を明らかにすることが成果として期待できる。

また滋賀県立琵琶湖博物館においては、収蔵されている民具（農耕具・漁撈用具・木造船等）を中心に民具調査を本年度から行った。研究方法および研究成果については、田上郷土史料館と同様である。なお、博物館収蔵の民具の来歴・用法等を具体化するには調査対象地域を設定する必要があるが、それは民具調査の動向を見て判断する。

2年間に集積した滋賀県湖東地方と滋賀県内の民具資料を検討し、県内および田上地区の生活文化の特性を明らかにするとともに里山利用の歴史、人々の自然との関わり方について考察を深める。この研究は、民具にみられる物質素材を軸にすることで自然科学系研究の橋渡しにすることを想定している。

(4) 里山利用における精神文化の研究

研究方針

このテーマを推進するのは朴炫国准教授を中心としたチームである。朴准教授は韓国

出身の民俗研究者であり、主に精神文化を中心に研究を進めてきた。そこで韓国における里山研究を、精神文化の面から再確認し、再構築することから研究を始める。以下参考として、朴准教授のコメントを報告する。

「韓半島に住む人々は、古くから背山臨水の地形に村を作り、山・村・田畑を一つの生活空間として認識し暮して来た。特に山には山神が寄居する神聖な場所として崇め、毎年日を決めて山に住む山神に祭祀を行ない神の加護を祈った。このような祭祀意識の中には自然に対する敬畏感を表現し、神の摂理を喜んで受け入れる自然順応的な人々の意識を読み取ることができる。村人は多くは春に種蒔きし、農作物の世話をし、秋には収穫をむかえる。その折々に、さまざまな年中行事を行なって生活のリズムを維持しようとした。

また、とくに有用な植物に対して名前を付与し、その使い道にしたがって食料として利用し、また漢方材料など、医薬品として活用する知恵を積んで来た。このような知恵や知識は、むしろ日本人よりも卓越しているかもしれない。

韓国人の多くは、自然の中で自然と共に暮してきたことにより、自然に親しみ、また活用し、自然環境の中に自己を投影しようとして来た。自然に対する知恵やその中で生きるための知識は、歳時風俗や植物の名前、説話などに今日なお残されている。

本研究では、韓国人の生活の中に継承されている歳時風俗や説話、植物などを通じて、自然に対して抱いて来た思考方式と自然観を観察し、韓国の文化と自然観を明らかにしようとする。さらに一歩進んで、韓国人の自然に対する理解と自然観を土台として、日本や中国の資料を比較検討し、漢字文化圏、稲作文化圏で類似の生活様式を営んで来た人々の深層に接近し、教育資料として活用しようとするものである」

以上、朴准教授の研究方針をふまえ、日本においても同等の調査項目を設定し、里山研究における「日韓比較研究」まで踏み込むことを考えている。

(5) 今年度 研究活動報告

2009年6月8日 民具調査（滋賀県大津市瀬田、井上邸より民具回収）

協力：田上郷土史料館

2009年6月18日 民具調査（滋賀県大津市瀬田、井上邸より民具回収）

協力：田上郷土史料館

2009年6月19日 民具調査（滋賀県大津市上田上、田上郷土史料館）

協力：田上郷土史料館

2009年8月7日～12日 民具調査（滋賀県草津市、琵琶湖博物館収蔵庫）

協力：琵琶湖博物館 中藤容子学芸員、辻川智代学芸員、老文子学芸員

2009年10月17日～31日 瀬田南大萱パネル展示（龍谷大学RECホール）

協力：南大萱資料室 共催：国際文化学会

2010年1月1日 民俗調査 山神祭事（滋賀県甲賀市）

2010年1月3日 民俗調査 山神祭事（滋賀県甲賀市）

2010年1月31日 民俗調査 山神祭事（滋賀県甲賀市）

2010年2月3日 韓国調査事前勉強会（龍谷大学）

2010年2月9日 民俗調査 山神祭事（滋賀県大津市）

2010年2月24日～3月5日 韓国山ノ神民俗調査（韓国）